

アジア太平洋路線の供給2ケタ増

■ IATA統計・10月

国際航空運送協会（IATA）がまとめた2023年10月の貨物統計で、アジア太平洋地域の国際貨物供給量（有効貨物トンキロ＝ACTK）が前年同月比15.9%増となった（表参照）。日本、中国と、主要市場への旅客便乗り入れが制限されていた1年前から一転し、ベリースペースの供給が戻ってきており、国際貨物輸送量（貨物トンキロ＝CTK）も4.0%増と、世界的に見て比較的高水準でプラス推移した。

世界全体の国際貨物供給量は前年同月比11.1%増、輸送量は3.5%増、貨物ロードファクター（LF）は3.7ポイント減の50.8%。供給量はすでに新型コロナウイルス禍以前の19年同月実績を上回っている。貨物量の月ごとの推移をみると、年初から大きな波が無い状況が続いている（グラフ①参照）。夏以降は昨年よりも高い水準にあるが、19年並みには届いていない。

国際貨物量の推移を主要路線ごとにみると、おおむね右肩上がりに伸び

IATAの世界航空会社貨物輸送実績									
		23年10月実績(前年同月比)			23年10月実績(19年同月比)				
(単位:%)	市場シェア*	輸送量(CTK)	供給量(ACTK)	貨物LF(ポイント)	輸送量(CTK)	供給量(ACTK)	貨物LF(ポイント)	貨物LF(水準)	
総合(国際+国内)	100.0	3.8	13.1	▲4.0	▲2.4	2.8	▲2.4	45.2	
アフリカ	2.0	2.9	9.8	▲2.8	6.2	▲2.8	3.5	41.6	
アジア太平洋	32.4	7.6	30.0	▲9.8	▲5.0	8.5	▲6.7	47.2	
欧州	21.8	1.0	7.0	▲3.2	▲11.3	▲10.7	▲0.3	53.0	
南米	2.7	4.0	8.3	▲1.5	0.7	▲1.8	0.9	35.4	
中東	13.0	10.9	15.0	▲1.7	2.8	6.6	▲1.7	46.0	
北米	28.1	▲1.8	2.4	▲1.7	6.3	5.9	0.2	39.2	
国際貨物	86.9	3.5	11.1	▲3.7	▲2.2	3.0	▲2.7	50.8	
アフリカ	2.0	2.8	9.6	▲2.8	6.9	▲1.5	3.3	42.6	
アジア太平洋	29.7	4.0	15.9	▲6.3	▲4.3	7.4	▲6.7	54.6	
欧州	21.5	1.0	7.7	▲3.7	▲11.7	▲11.5	▲0.2	55.0	
南米	2.3	3.5	11.8	▲3.3	3.0	12.7	▲3.9	41.0	
中東	13.0	10.8	15.0	▲1.8	2.8	6.8	▲1.8	46.3	
北米	18.4	0.7	5.5	▲2.3	9.5	10.4	▲0.4	47.0	

*市場シェアは2022年のCTKベース
CTK=貨物トンキロ
ACTK=有効貨物トンキロ
貨物LF=貨物ロードファクター

注) 地域別航空会社の貨物輸送実績増減。市場全体および地域別成長率は各航空会社の実績レポートおよび一部レポートの無いところは推測に基づく。なお、航空会社の輸送実績は登記上の国籍をもとに地域別に振り分けたものであり、該当する地域ごとの輸送規模を示すものではない

ているが、アジア北米、アジア域内は依然としてマイナス圏にある（グラフ②参照）。欧州ーアジアはプラス圏内だが、直近では緩やかな下降傾向にある。

ウィリー・ウォルシュ事務総長兼CEOは「10月の貨物量は3カ月連続で前年同月比プラスとなった。23年は、年初時点よりはるかに好調な足取りで終わられそうな勢いだが、貨物量はまだコロナ禍前の水準を下回っており、世界経済を見通すには不

確定要素が多い」と慎重な見方を示している。

